

第65号 通巻15巻 第4号  
 1992年11月1日発行  
 守山市立埋蔵文化財センター  
 ☎0775-85-4397  
 〒524-02  
 守山市服部町2250番地

## はじめに

朝夕の冷え込が厳しい季節になって来ました。発掘作業の大敵である「しぐれ」や「木枯らし」の到来が間近に迫っていることを考えると憂鬱になります。天候の悪化とは逆に、秋は収穫の済んだ田畑の開発が始まる時期で、この2カ月に継続調査4件に加え、新たに12件の調査を実施しました。それでは、9～10月の発掘調査の動向や成果を報告します。

### 【発掘調査だより】

[9～10月実施調査一覧表]

(○は終了、次頁に位置図を掲載)

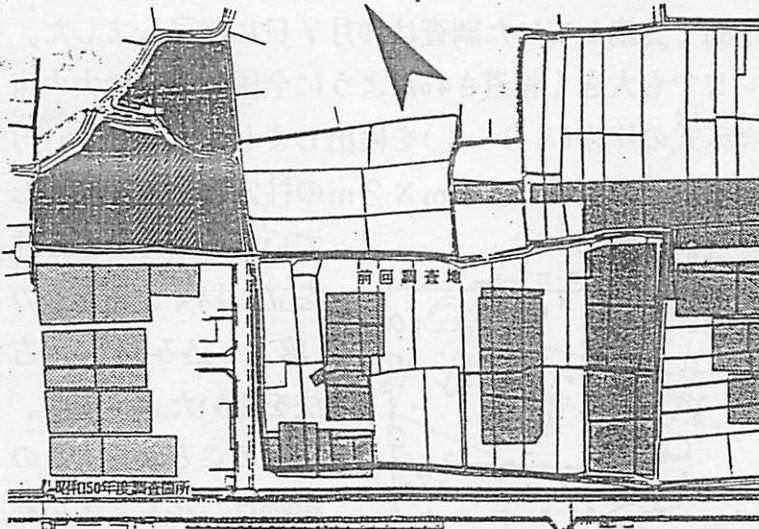
髣遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	備考
①下長遺跡	古高町	工業団地造成	4.15～10.5	平成3年度からの継続
②酒寺遺跡	播磨田町	店舗建築	6.22～9.30	第1地点、前号で報告
③酒寺遺跡	播磨田町	共同住宅建築	9.3～9.16	第2地点
④伊勢遺跡	伊勢町	倉庫建築	6.25～10.7	第1地点、前号で報告
⑤伊勢遺跡	伊勢町	共同住宅建築	7.29～9.5	第2地点、前号で報告
⑥伊勢遺跡	伊勢町	個人住宅建築	10.17	第3地点
⑦八ノ坪遺跡	播磨田町	給油所建築	9.16～9.19	第1地点
⑧八ノ坪遺跡	播磨田町	共同住宅建築	9.16～9.30	第2地点
⑨赤野井遺跡	赤野井町	個人住宅建築	9.28～10.2	
⑩大洲遺跡	阿村町	農業倉庫建築	10.22～10.23	第1地点
⑪下之郷遺跡	下之郷町	共同住宅建築	10.17～10.22	
⑫吉身西遺跡	守山町	個人住宅建築	10.20～10.23	第1地点
⑬吉身西遺跡	守山町	個人住宅建築	10.23～10.31	第2地点
14酒寺遺跡	播磨田町	区画整理事業	10.1～	第3地点
15小津浜遺跡	杉江町	農村下水道	10.7～	
16大洲遺跡	阿村町	道路建設	10.28～	第2地点



□ □ □ 終了した調査 □ □ □

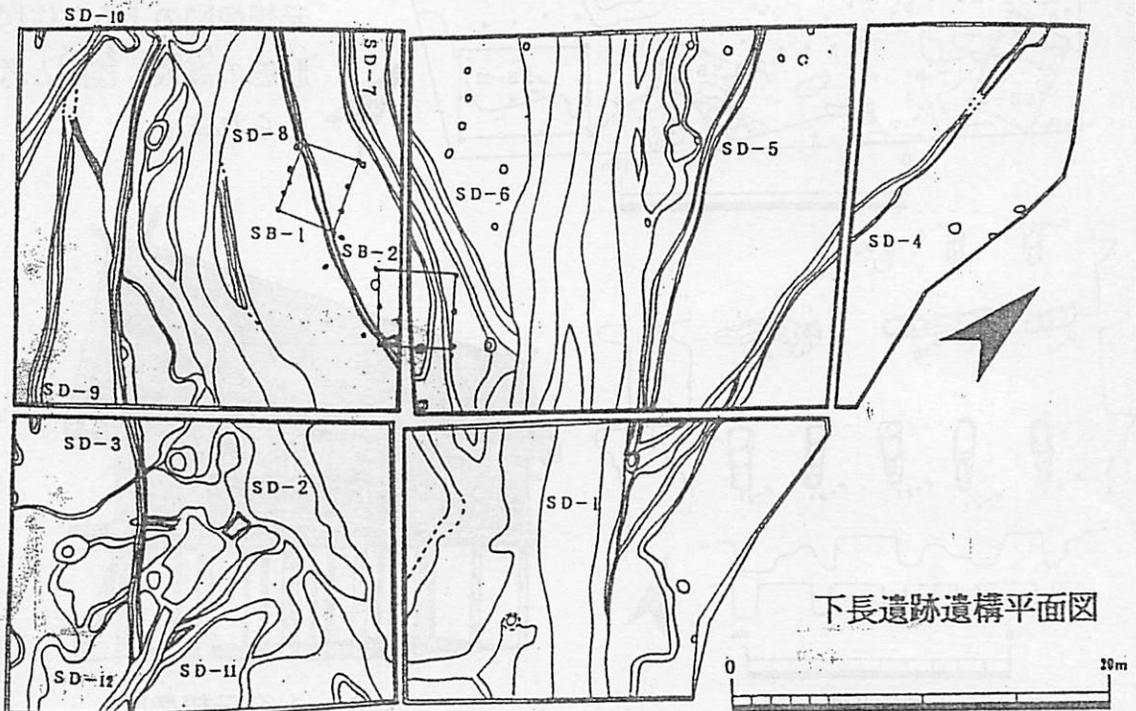
### ■下長遺跡（一覧表、位置図①）

平成4年1月から実施していた古高町・下長遺跡の発掘調査は10月5日にすべて終了しました。約 10000m<sup>2</sup>の工業団地造成予定地を4区ブロックに分けて調査を進め、前号までに3区の調査成果をその都度報告してきましたが、最後の調査区は下図のとおり12条の溝(SD-1~12)と2棟の掘立柱建物(SB-1、2)を検出しました。まず、検出した溝は、平成元年から3年まで実施した既存工業団地(今回の調査地南東側)の発掘調査で検出した旧河道の下流部にあたるもので、地形的に幾条もの溝が集まり大規模な流域(旧河道)を形成していたのが、当地ではやや拡散した状態で確認することができました。溝からは前回調査ほどではありませんが、土器や良好な木



地(今回の調査地南東側)の発掘調査で検出した旧河道の下流部にあたるもので、地形的に幾条もの溝が集まり大規模な流域(旧河道)を形成していたのが、当地ではやや拡散した状態で確認することができました。溝からは前回調査ほどではありませんが、土器や良好な木

▲調査位置図 ■今回調査地 ▨今回報告箇所



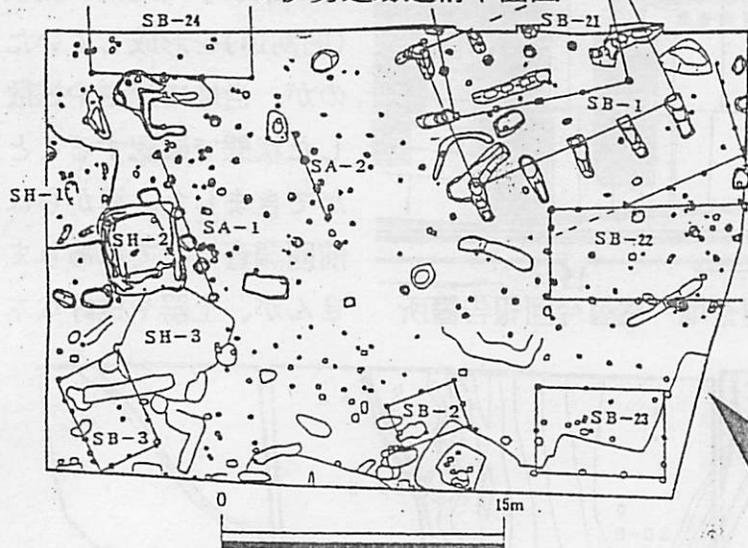
器が出土しています。また掘立柱建物は2棟と、集落の中心部である前回調査地から離れるため希薄になります。時期は古墳時代前期と考えられます。

4カ年継続していた下長遺跡の調査もこれでひとまず終了しますが、それまで殆ど実態が知られていなかった当遺跡が縄文時代晩期、弥生時代中期～古墳時代前期、そして平安時代中期に及ぶ複合遺跡で、古墳時代前期には大規模かつ先進的な集落が営まれていたことを知ることができました。

### ■伊勢遺跡第1地点（一覧表、位置図④）

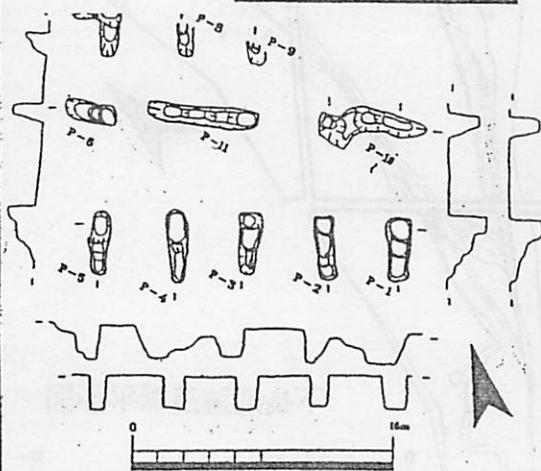
6月25日から伊勢町字中東浦で実施していた調査は10月7日に終了しました。ここでは、広報や新聞、テレビでも大きく報道されたように全国的にも最大の床面積をもつ弥生時代後期の高床式<sup>たかゆかしき</sup>の建物(SB-1)を検出しました。東西(桁行)<sup>ひたぎさ</sup>4間、南北(梁行)<sup>はりゆき</sup>2間、床面積88㎡の規模で、1m×2mの柱穴は片方が傾斜

▼伊勢遺跡遺構平面図

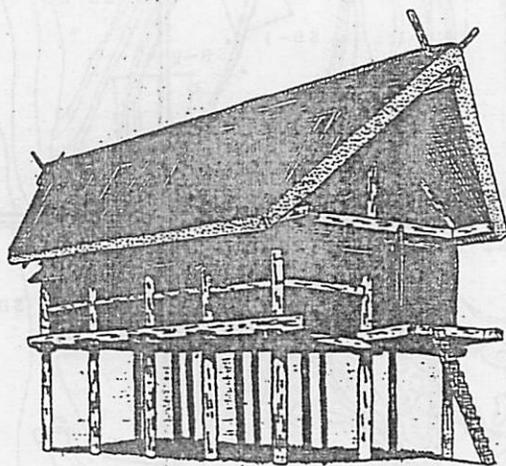


っていて、重量のある柱を立て易くするための「落とし込み」という方法を用いたようです。

このことから、この建物は、長くて太い柱を使った高さのある復元想像図のような住居形態の高殿、<sup>たかの</sup>楼閣と考えられます。



SB-1 実測図

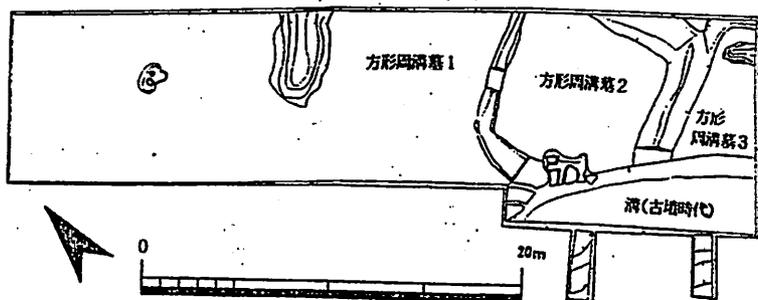


SB-1 復元想像図

### 伊勢遺跡第2地点（一覧表、位置図⑤）

7月29日から実施していた第2地点の調査は9月5日で終了しました。ここからは弥生時代後期の方形周溝墓3基と古墳時代後期から奈良時代の溝多数を検出しました。方形周溝墓のうち2基は南側が古墳時代後期の溝に壊されていますが、一辺8～9mの規模になります。検出した3基の周溝墓は周溝が連結するタイプで、家族など血縁関係が深い人々の墓であると考えられます。

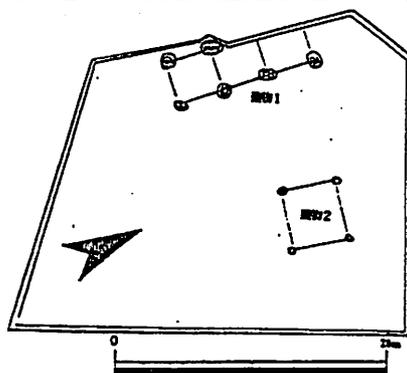
伊勢遺跡は弥生時代後期の大集落で、その周辺には方形周溝墓群が広がっていることが知られていますが、今回検出した方形周溝墓もこの集落の一家族の墓でしょう。他に縄文時代後期の土器、石器が少量ながら出土していて注目されます。



▲伊勢遺跡(第2地点)遺構平面図

### 赤野井遺跡（一覧表、位置図⑨）

赤野井町字六反田で個人住宅建築に先立って実施し、掘立柱建物2棟を検出しました。建物1は3間×1間以上の規模で、おそらく倉になるようです。建物2は1間×1間の小規模な建物で、小屋のような簡易な建物が考えられます。周辺の調査で、古墳時代後期から奈良時代の集落が広がっていることが分かっていますので、今回検出した建物も同時期の建物と考えられます。



▲赤野井遺跡遺構平面図

### 酒寺遺跡第1地点（一覧表、位置図②）

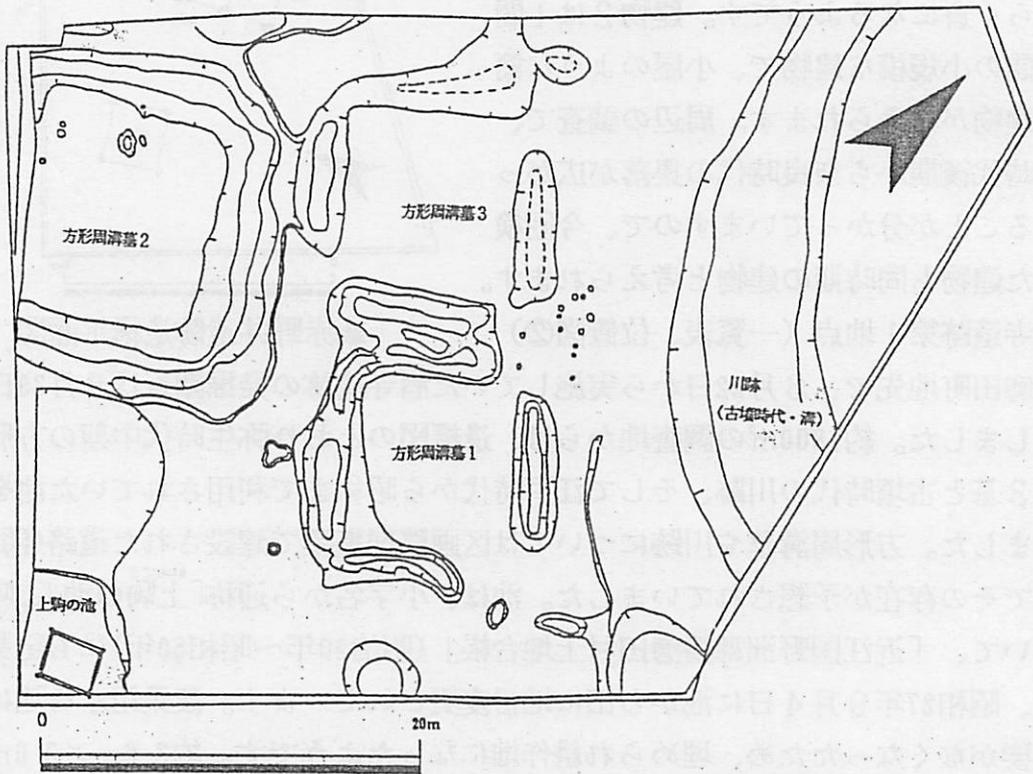
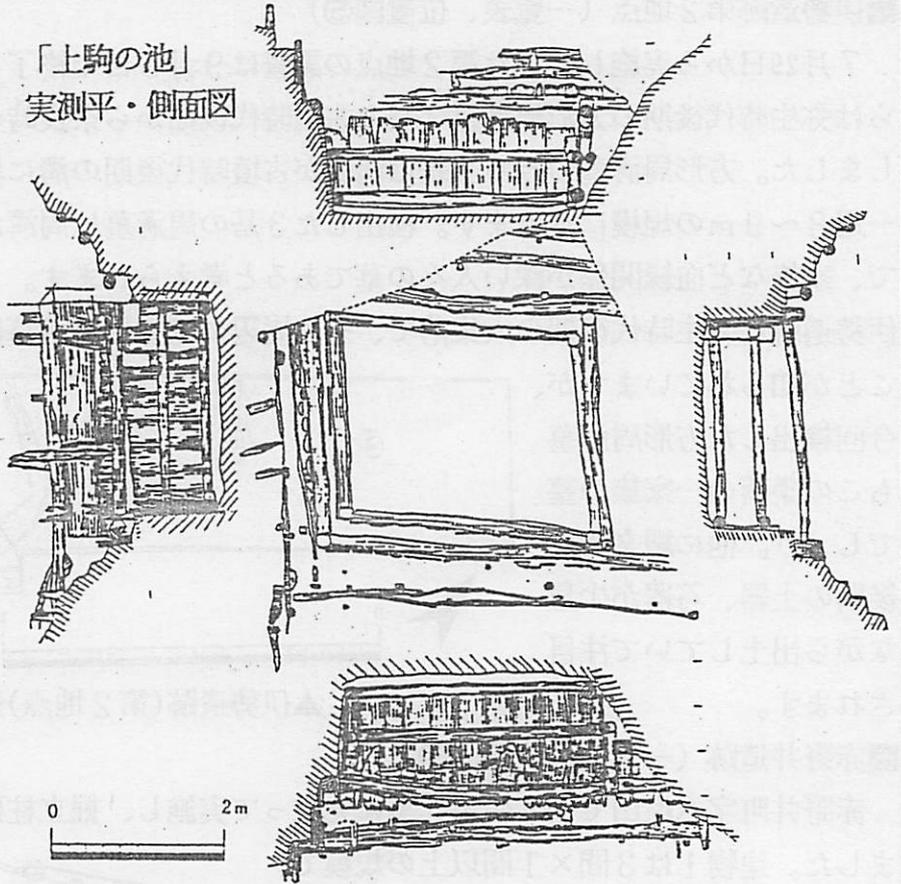
播磨田町地先で、6月22日から実施していた酒寺遺跡の発掘調査は9月30日に終了しました。約1800㎡の調査地からは、遺構図のとおり弥生時代中期の方形周溝墓3基と古墳時代の川跡、そして江戸時代から昭和まで利用されていた池を検出しました。方形周溝墓や川跡については区画整理事業で建設された道路(隣地)調査でその存在が予想されていました。池は、小字名から通称「上騎の池」と呼ばれていて、「近江国野洲郡播磨田村土地台帳」(明治20年～昭和50年)にも記載があり、昭和27年9月4日に池から田に地目変更されています。農業用水を池に頼る必要がなくなったため、埋められ耕作地になったようです。約3.6m×3.0mの

栴(ます)形に丸太  
や割り板で枠を組  
んでいて、水の涌  
き出す旧地表面約  
2.5m下まで掘り  
下げています。

昭和の時代まで  
農業用水を確保す  
るため利用されて  
いたようです。

「河西村土地原  
簿」をみると、こ  
のような池がこの  
あたりには38カ所  
あったことがわか  
りました。

「上駒の池」  
実測平・側面図



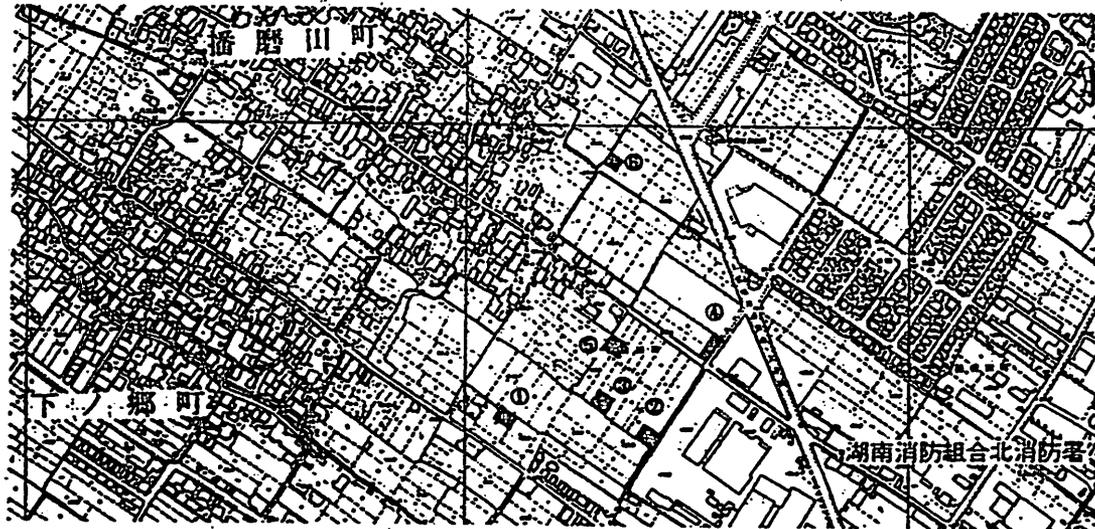
### 吉身西遺跡第1・第2地点（一覧表、位置図⑫⑬）

守山町の区画整理地内の個人住宅建築に伴い、第1地点を10月20日～23日まで、第2地点を23日～31日まで継続して調査しました。第1地点では不定形の土壌などを、第2地点では溝3条とピット数穴を検出しました。後者の溝は、前面道路の調査で1条、隣接地の住宅建築の事前調査の際に2条、既に確認しており、古墳時代、近世の溝であることがわかっています。

□□□ 実施中の調査 □□□

### 酒寺遺跡第3地点（一覧表、位置図14）

10月1日から播磨田町で区画整理事業に先立ち、酒寺遺跡の発掘調査を実施しています。区画整理地内に点在する7箇所6地点、都合3500㎡が対象で、現在、約1000㎡の調査地の作業を終えています。検出した遺構は土壌2基で、1基は径約1.5mの卵形で、1m程の深さがあります。ここからは6世紀前半の須恵器の蓋、杯や土師器の甕が出土しています。もう1基は直径が10m程の円形の土壌で、20cmの深さがあります。この土壌からは弥生時代後期の壺、甕が出土しています。小さい方の土壌は井戸と考えられ、大きい方は柱穴がみつからないことや底が中央に向かって落ち込み、平坦でないなど問題点がありますが、<sup>（てらまやけつうよ）</sup> 竪穴住居の可能性がありま。これから行う調査の成果については次号で報告します。



①が今回報告箇所②調査中  
酒寺遺跡第3地点調査地

### 小津兵遺跡（一覧表、位置図15）

10月中旬から11月初旬の予定で、杉江町地先において農村下水道浄化処理槽の建設に先立ち、約500㎡の発掘調査を実施しています。地表約80cm下で中世以降の水田跡を調査し、現在、さらに約40cm下で古墳時代中期から鎌倉時代にかけての遺物が多量に出土する<sup>（ほうかんそう）</sup> 包含層を調査中です。

◇トピックス◇ 発掘調査現地説明会を9月12日(土)に酒寺遺跡で、19日(土)に伊勢遺跡で開催しました。酒寺遺跡には学校が休みとなる第二土曜日ということで親子連れが多く、約80名の見学者がありました。また、伊勢遺跡の現地説明会では、新聞やテレビでその成果が大ニュースとして報道されたこともあって、約800名もの人々が見学に訪れました。これからも、現地説明会により調査成果を報告する機会を多く開催していきたいと考えています。



伊勢遺跡現地説明会風景

◇埋蔵文化財センター秋季特別展開催のお知らせ◇

恒例の秋季特別展を下記のとおり開催いたします。弥生時代か古墳時代にかけて、日本各地にはその地方独特の形、文様をもった土器が作られていました。滋賀県でも独自の土器が古代人によって生み出されてきました。そこで今回は、地域色豊かな土器、近江型土器にスポットをあて、地域文化や他地域との交流を考えていくものです。滋賀県独特の土器とは、一体どのような形をしていて、どのような文様でかざられているのか?ぜひ見学にお越し下さい。

記

- 1 開催テーマ 近江型土器の成立と展開
- 2 開催期間 平成4年11月22日(日)～12月6日(日) 期間中無休
- 3 開催場所 守山市立埋蔵文化財センター1Fホール他
- 4 講演会 演題「近江型土器の成立と展開」  
講師 兼康保明氏(滋賀県文化財保護協会整理課長)  
日時 11月29日(日)午後2時～ 2F会議室
- 5 体験学習 テーマ「土器づくりー近江の土器を作ろうー」  
日時 土器づくり・11月23日(祝)/土器焼き・12月6日(日)

【後記】 酒寺遺跡では原始・古代人の生活跡とともに、つい数十年前の農業用水池もみつかりました。一度土に埋められると、その存在は急速に薄れますが、農業は今も尚、大変な苦勞を伴うものであることを再認識しました。(馬耳東風)